

第5週 水曜日 早課 カノン

第1のカノン8調イオシフの作、第2のカノン2調フェオドルの作

第3歌頌

イルモス、「主、天の穹蒼の至上なる造作者」。

我が心は主の中に堅められ、我が角は我が神に在りて高くなり、我が口は我が敵の上に開けたり、蓋我は爾の救の為に楽しむ。主の如く聖なる者あらず、蓋爾の外に他の者なし、我が神の如く堅固なる者あらず。復驕れる言を言ふ勿れ、狂妄をして爾の口より出でしむる勿れ、蓋主は睿智の神にして、行為は彼に権られたり。

十四段に、

強き者の弓は弱み、弱れる者は力を帯びたり。飽きたる者は糧の為に労働し、飢えたる者は息ふ。胎荒れたる者は七子を生み、多くの子ある者は衰ふ。主は殺し亦生かす、地獄に下し亦上す。主は貧しくし亦富ますも卑くし亦高くす。主は貧しき者を塵埃より起し、乏しき者を草芥より挙げて、之を牧伯と共に坐せしめ、光榮の位を嗣がしむ。彼は其聖者の足を守る、不法の者は幽暗の中に消ゆ。

義なる審判者よ、爾は十字架に己の手を舒べて、仇を定罪し給へり。今は、救世主よ、我放蕩にして爾恒忍なる主を悲しませ、諸罪にて定罪せられし者を救ひ給へ。

蓋人の力を持って堅固なるに非ず、主は之に敵する者を砕かん、主は聖なり。

至仁なる救世主よ、我家畜の如き慾に従ふ度生を臨み、爾の誠に離れて疎く穢らはしき住民に奴隷とせられたり。今我還る者を納れて、我を救ひ給へ。

智者は其の智を以て誇る勿れ、強き者は其の力を以て誇る勿れ、富む者は其の富を以て誇る勿れ。

イイス、獨人を愛する主よ、昔聾者の耳を啓きし如く、習慣に由りて聾者と為りたる我が靈の耳を啓きて、意を注ぎ手救の言を聞くを得しめ給へ。

誇らんと欲する者は主を悟りて彼を知り、且つ地の中に審判と義とを行ふを以て誇るべし。

[生神女讃詞] 救の門、神に渡る橋、ハリスティアニンなどの轉達者、至浄なる女宰よ、度生の誘惑に圍まれて荒らさるる我を導き給へ。

イルモス、「諸善を耕作し、諸徳を培養する神よ」。

主は天に升起りて轟けり、彼は義にして地の極を審判せん。

ハリストスよ、爾は多くの慈憐に因りて十字架に升起りて、我を諸慾の坎より引き出して、天に升せ給へり。

彼は力を以て其の王に賜ひ、其の膏つけられし者の角を高くせん。

ハリストスよ、爾は十字架に己の手を舒べて、爾に離れたる衆民を抱きて、爾の権柄の下に立たしめ給へり。

光榮は父と子と聖神に帰す。

[聖三者讃詞] 三位の唯一者、唯一の神性、父、子、及び義なる神よ、爾を尊む者を救ひ給へ。

今も何時も世々に、「アミン」

[生神女讃詞] 母童貞女よ、地上の者は誰か宜しきに合ひて爾を讚美するを得ん、蓋爾は

女の中に獨選ばれて、至福なる者と表れ給へり。

我等の神よ、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

イイススよ、不順に由りて爾を悲しませし我の為に爾は十字架に擧げられ脇を刺され、
膽を嘗め給へり。

(詠) イルモス2調 「諸善を耕作し、諸徳を培養する神よ、爾の慈憐に因りて、實を結ばざる我が智慧を實を結ぶ者と顕し給へ。」

第3歌頌



しよぜん ころさく しよとく ばいよう
諸善を耕作し 諸徳を培養する かみ や、
なんじの慈憐に よーって 實を結ばざる
我が智慧を 實を結ぶものとあらわしたまへえ

小連禱

第8歌頌

イルモス、「ハルデヤの窘迫者は怒に堪へずして」。

主の悉くの造物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 主の諸天使と主の諸天は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 諸天の上に在る水と、主の萬軍は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 日と月と、天の星は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 雨と露と、諸の風は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

十四段に、

火と熱、寒と暑は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 露と霜、氷と嚴寒は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 霰と雪、夜と晝は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 光と暗、電と雲は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 山と邱、地と地上の植物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 諸の泉と、海と河、鯨と凡そ水に泳ぐ者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

天の諸^{もろもろ}の位鳥、野獸と一切の家畜と主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、十字架に爾の首を俯して、甘んじて眠り、罪の暗を散じたる義の光なるハリストスよ、我放心の坐睡に己を委ね、逸樂の慾の床に臥して寝ぬる者に眠らざる目を注ぎて、我を宥め給へ。

人の諸子^ほは主を崇め讃めよ、イスライリ民は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、我洗礼に因りて富を施す恩賜に飾られたる者は不當にして悪事の貧しきを好み、諸徳に疎く為りて、遠く悪の地に離れたり。求む、救世主よ、還して我を納れて、爾の十字架を以て萬世に護り給へ。

主の司祭等、主の諸僕^ほは主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、靈よ、諸慾の酔を、齋を以て潔を為す涙の避け、心を樂しませ、逸樂を枯らし、肉慾

の焰を消す者を得よ。爾の為に木の上に釘せられしハリストスと偕に釘せらるるを務めよ、然からば世々に活きん。

諸神^{たましい}と諸聖人の靈^{けんび}と、諸義人と心の謙卑なる者と主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、

〔生神女讃詞〕。純潔なる神の母よ、我が靈の傷及び罪の汚を爾の産の脇より注がるる泉を以て洗ひ、其の流にて潔め給へ、我爾に呼び、爾に趨り付き、爾恩寵を蒙れる者に求むればなり。

又、イルモス、「諸天に於て天使の聲を以て」。

アナニヤ、アザリヤ、ミサイルは主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、身にては十字架に釘せられ、神性にては苦しみを受けざりイイススを、諸天使及び我等地に生まるる者は萬世に歌ふ。

主の諸使徒、預言者、致命者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、ハリストスよ、爾は十字架に釘せられ、詛に當る恥づべき詞を受けて、我等を朽壞より脱れしめて救ひ給へり。

我等主なる父と子と聖神^ほとを崇め讃めん。

〔聖三者讃詞〕 嗚呼三者、聖、聖、聖なる唯一の神性、無原にして単一なる萬衆の不可思議なる神よ、我ヘルビムの如く爾を歌ふ。

今も何時も世々に、「アミン」

〔生神女讃詞〕 潔き者よ、萬族は爾に讃美を奉りて、欣ばしく爾を尊む、蓋爾は造成主を生み給へり、嗚呼恐るべき奇跡、至福なる産や。

我等の神よ、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

ハリストスよ、爾は一つの事の為に悉くの苦しみを忍びたまえり、是れ我を救はん為なり。我爾の十字架と、釘と屠宰とを萬世に歌ふ。

(詠) 我等主を讃め、崇め、伏し拝みて世々に歌ひ讃めん、

(詠) イルモス 2調 「諸天に於いて天使の聲を以て讃榮せらるる神を、我地に生まるる者は崇め讃めて、萬世に歌はん。」

第8歌頌イルモス

我等主を崇め讃め伏し拝みて 世々にうたい 讃めん。

諸天に於いて天使の聲を以て讃榮せらるる

かみを我等地に生まるるものは

崇め歌いて 萬世にうたわん。 ヘルビムよりへ

司祭 生神女光の母を讚歌を以て讚め揚げん。

(詠) [ヘルビムの歌]

第1句 我が心は主を崇め、我が靈は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。



第2句 その婢の卑しきを願み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

→附唱ヘルビムより尊く

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、其の憐れみは世々 彼を畏るる者に臨まん →附唱ヘルビムより尊く

第4句 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、→附唱ヘルビムより尊く

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。 →附唱ヘルビムより尊く

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、アウラアムと其の裔を世々に憐れむ事を記憶し給へり、 →附唱ヘルビムより尊く

第9歌頌

イルモス、「天は懼れ、地の極は驚けり」。

祝讀せらるる我主、イズライリの神、蓋其民を眷みて之に購を為し、我等の為に救の角を其僕ダワイドの家に興せり、古世より其聖なる預言者の口を以て言ひしが如し、即我等を我が諸敵及び凡そ我等を悪む者の手より救ひ、以て矜恤を我が先祖に施し、八段に、其聖なる約、即我が祖アウラアムに矢ひたる誓を記念せん。

萬有の王よ、爾本性にて苦しみに與らざる者が甘んじて苦みを受け、十字架に舒べられしを見て、日は其の光線を隠し、全治は震ひて動けり。故に我爾に祈る、ハリストスよ、醫師として、我が靈の苦しみを醫し給へ。

謂ふ、我等に我が諸敵の手より救はれし後、懼なく、彼の前に在りて、聖を以て、義を以て、生涯彼に事へしめんと。

我等救の道を棄てて、地獄に送る道を行く、逸楽の深き闇、諸慾の攻撃、誘惑の暴風は我を繞る。故に我爾に祈る、ハリストスよ、獨大仁慈なる主として、爾の十字架を以て我を救ひ給へ。

